

9
月



美園小だより

令和 8 年 8 月 26 日
さいたま市立美園小学校
第196号 児童数 1036名
Tel 048(812)6611
Fax 048(878)6660

探究心を持ち続ける

校長 河野 秀 樹



道徳の教科書には、社会に貢献した偉人や郷土の人物などが取り上げられることがあります。5年生の教材には、中村哲氏や渋沢栄一氏などが登場し、9月は、二億人を救った科学者として大村智氏の生き方の学習をします。その中のエピソードの一つとして、定時制高校の教諭時代に教えた生徒たちが、昼働き夜必死に勉強している姿を見て、自分も「もっと勉強しよう」「学び直そう」と考え、大学院に進むというものがあります。

この教材から、子どもたちは、探究心を持ち続けることの大切さについて考えていきます。

私は、6月に研修会で山梨に行きました。開始までに時間があつたので、会場のある甲府駅から徒歩で山梨大学の大村智記念学術館に足を延ばしました。そこで、大村氏について理解を深めるきっかけを得ました。

山梨大学を卒業された大村氏は、大学の研究者として、寄生虫を駆除する化学物質「エバーメクチン」を発見し、それを元に製薬会社と抗寄生虫薬「イベルメクチン」を開発しました。これは、熱帯地方で失明や視覚障害を引き起こす「オルコセンカ症」の特効薬となり、一年間で3,300万人を失明から救いました。大村氏はこの功績から2015年にノーベル生理学・医学賞を受賞しました。

実は、大村氏は埼玉にもゆかりがある人です。大学卒業後に浦和の親戚の家に下宿をしたり、北本市にある北里大学メディカルセンターの建設に取り組んだりしていました。夏休みに、北里大学メディカルセンターにある大村記念館に行きました。そこでは、大村氏が人との出会いを大切にすることが伺われる交友関係の広さを知ることができました。また、絵画が趣味である大村氏の収集した作品を観ることができました。センターには多くの絵画が展示されており、「絵のある病院」として診察を待つ患者の目を楽しませています。

大村氏は、教師をしていた母の日記に書いてあった「教師の資格とは免状ではなく、自分自身が絶えず進歩していることである」という言葉を自身の教訓にし、「正師を得ざれば、学ばざるに如かず」という道元の言葉を戒めにしていました。これは、「人は優れた指導者を得なければ、学んだことにならない。よって、教師の側が絶えず自分自身を磨かなければならない」という意味だそうです。私たち教員も、夏休み中に多くの研修会に参加し、学びを広げ深めて参りました。これからも子どもに負けないように、探究心を持ち続けていきたいです。